

教職員の会 HP の URL は <https://www.kyoushokuinnokai.net/index.php> です。

# 徳島 子どもと教育

徳島県教職員の会



2019年  
12月15日  
No. 242

詳しくは  
Webへ

## ひまわり学校で秋満喫！

11月23日、神山町の軽井沢レジャーランドで、55人が参加し、秋のひまわり学校が行われました。秋の一日、親子で秋を満喫しました。

今回のメニューは

- ① 河原の石でかまどを作り やきやき大会
- ② 班対抗 石積み競争
- ③ 石ころアート&水切りで川と仲良く自由遊び
- ④ 河原で宝探し

毎月1回の「子ども会議」で、やりたいことを話し合い、結果として、河原でやきやき大会をしようということになりました。大人が決めれば、時間もかからず簡単なことですが、時間をかけて話し合うプロセスを大切にしてきました。

子ども会議のメンバーは、みんなが主役の活動にするにはどうすればいいか、班で仲良くなって、またひまわり学校に来なくなる活動はどんなことがあるかななどを、当たり前前提として話し合い、考えられるようになってきたようです。

民主主義は、体験の中で身につくのだとつくづく感じます。

小学生は、とても忙しく、中・高学年の参加者が少ないのが悩みです。河原でのびのびと遊ぶ子どもたちを見て、「子どもの権利条約」にある、子どもが、子ども時代を享受することを確保しなければならないという精神の大切さを思いました。国連子どもの権利委員会から指摘された「子ども時代を守れ」というメッセージの重さをもっと、大人社会・政府は受けとめなければいけないのではないのでしょうか。

(吉野川市会員 O)



班対抗石積み競争

## 望年会のご案内



**12月26日(木)18:00から、徳島市栄町1-10(電話050-5827-2449)、アクティから徒歩30秒。**

**今年も 郷里(さと)で、2時間飲み放題5000円です。**

**申し込みは、12月23日までに、〇〇さん(電話 10110000000)までお願いします。**

## 退職教職員の「第25回四国ブロック交流集会in徳島」 四国の仲間の期待に応え、大きく成功！

11月8・9日、アオアヲ・ナルト・リゾートを会場に開かれた「第25回四国ブロック交流集会 in 徳島」(全日本退職教職員連絡協議会の四国ブロック集会)には、徳島を含む四国各県から53名が参加しました。前回、当番県となったときは、徳島県退職教のメンバーの高齢化と役員不足のために開催できなかった経緯もあり、県退教と教職員の会の退職者メンバーで、力を合わせて開催した今回の集会の成功は、徳島と四国の仲間を大いに励ます成果をあげました。①「話そう」(各県の活動交流)、②「歌おう」(うたごえ交流会)、③「観よう」(大塚国際美術館見学)の3つの分科会が開かれ、夕方の懇親会では、徳島の「即興・阿波踊り教室」も飛び出して親睦を深めることができました。2日目には徳島歴教協の井内哲也氏を講師に迎え、日清・日露戦争前後の朝鮮半島侵略・差別の歴史を学びました。会場使用にはホテルの全面協力を得ることができ、「こんな豪華な部屋で会議をしたのは初めて!」との感想も…。好評のうちに次回開催の高知県に引き継ぐことができました。

(特別支援教育ブロック:H)



懇親会の一場面「教え子を再び戦場に送るな」

## ゆきとどいた教育をめざす教育署名スタート！！

遅くなりましたが、今年度の教育署名をスタートします。署名は左側が全国署名で、衆議院議長・参議院議長宛、右側は県署名で徳島県議会議長宛です。全国署名の締め切りは2020年2月20日まで、県署名は5月中旬締め切りを予定しています。集めていただいた署名は、同封の返信用封筒で徳島労連までお送り下さい。

子どもたちが安心して学べる学校に

教育全国署名にご協力ください

国の責任で教育条件の整備を

国連子どもの権利条約第13条

子どもの権利条約第13条は、子どもが自由に意見を述べ、その意見を考慮される権利を保障している。これは、子どもが安心して学べる学校を築くための重要な要素である。

教育全国署名は、この権利を保障するための取り組みの一環として行われる。全国の教育関係者や市民からなる署名団体が、国や自治体に教育条件の整備を求め、子どもたちの学びの環境を改善していく。

今年度の教育署名は、12月23日までに申し込みを完了させる必要がある。申し込みは、電話またはメールで行うことができる。詳しくは、お問い合わせ先までお問い合わせください。

2019年度ゆきとどいた教育をめぐる全国署名

ひとりとどいて大切に

徳島でゆきとどいた教育をめぐる全国署名

署名の目的

1. 国連子どもの権利条約第13条に基づき、子どもが安心して学べる学校を築くための取り組みを推進すること。

2. 教育関係者や市民からなる署名団体が、国や自治体に教育条件の整備を求め、子どもたちの学びの環境を改善していくこと。

3. 今年度の教育署名は、12月23日までに申し込みを完了させる必要があること。

4. 申し込みは、電話またはメールで行うことができること。

5. 署名の集約は、12月23日までに完了すること。

6. 署名の集約は、電話またはメールで行うことができること。

7. 署名の集約は、電話またはメールで行うことができること。

8. 署名の集約は、電話またはメールで行うことができること。

9. 署名の集約は、電話またはメールで行うことができること。

10. 署名の集約は、電話またはメールで行うことができること。

署名の集約先

〒760-0000 徳島県徳島市栄町1-10

電話 050-5827-2449

メール [kyoushokuinnokai@kyoushokuinnokai.net](mailto:kyoushokuinnokai@kyoushokuinnokai.net)

# よ ね 米ちゃんの楽しい授業 ②

## “手で作り 手で学ぶ 算数”で分かった！

米田恵子（公立小学校教諭・数学教育協議会四国地区委員長）

遠山啓は、『…できるだけ短い時間の中で教えるという、一種の能力主義みたいなものがあった…計算のできる子が1億を本当に自分の実感としてとらえているかというたいへん疑問なのです。体験的な学習は、できない子に必要であるだけでなく、実際にはできる子にも必要なのだと思います。…教具で作業することによって、具体的な感覚の世界から、しだいに論理で考える方向へ持っていく…』と、教具を使った操作活動を取り入れる授業を提案しました。一人一人が腑に落ちて分かるためにも、集団思考の学びを創るツールとしても、『操作活動』は授業に不可欠です。

孔子の言葉が、“I hear and I forget, I see and I remember, I do and I understand”と英訳されているのをネットで見つけ、この言葉が「操作活動」の有効性を言い当てていると思い、何年間か黒板の上に掲げていました。教師の説明を聞いただけや、美しく動くデジタル教科書の画面を見ただけでは、分かったつもりになるけれど、本当は理解できてないことが多いのです。理解には、手を使った試行錯誤が大切です。

教科書の「速さ」の学習では、速さ＝距離÷時間、距離＝速さ×時間、時間＝距離÷速さ、いう3つの公式を続けて習います。文章問題の数値を公式に当てはめて解くのですが、公式を覚えてただけでは、「距離・時間・速さ」という量を理解してないので、3つの数値を探してノートの隅に「はじきの図」を書いて立式している子を見かけます。速さの実験を取り入れた授業には、時間や手間がかかります。効率的に、やり方（公式）を覚えさせて、たくさん問題を解かせることで定着を図ろうとしますが、やり方を覚えてただけでは忘れてしまうので、何度も復習が必要になり、逆に時間がかかります。

「速さ」の学習では、家から持って来たおもちゃで速さ競争をし、見た目でも順番を決めます。それを確かめる方法について話し合うと、走った長さや時間を測り、1秒あたりの長さを求めて、長いほど速いという意見にまとまります。2016年の実践では、一番速い車は3秒間に425cm走りました。425cmの紙テープを3等分した長さが秒速になります。実際にはさみで3つに切ると、紙テープの長さで秒速を取り出すことができます。3等分したことを式に表すと  $425 \text{ cm} \div 3 \text{ 秒} = 141.7 \text{ cm/秒}$  と書けます。次に、各グループに巻き尺とストップウォッチを渡し、いろいろなおもちゃの速さを求めさせます。3時間かかりましたが、「距離や時間がバラバラでも、長さ÷時間の計算で簡単に比べられた」「まっすぐに走れないものでも1秒あたりに何cm進むか測れて、同じ距離でなくても速さ比べができた」と、実感を伴って『速さ』が理



解できました。「距離＝速さ×時間」と「時間＝距離÷速さ」も公式を覚えずに、紙テープとはさみとセロハンテープを使って式を作ります。秒速20cmのおもちゃが5秒で走る距離は、20cmの紙テープを5本貼り合わせるからかけ算（ $20 \text{ cm/秒} \times 5 \text{ 秒} = 100 \text{ cm}$ ）です。時間は、60cmの距離を秒速15cmで切り取っていくと4本（4秒分）できるからわり算で、 $60 \text{ cm} \div 15 \text{ cm/秒} = 4 \text{ 秒}$ と式に書けます。覚えた3つの公式より、『操作活動』を通して腑に落ちて分かった3量の関係の方が、操作活動と結びついた記憶なので、取り出しやすく、立式しやすいのです。

教科書の「思考・表現」の活動では、テンプレートにあてはめて文章を作ります。学テも同様に、見本文の数値を変えて文章と式で解答を書くのが「思考・表現」の問題です。それは、本当に思考・表現でしょうか？

人は、手で物を動かす時、試行錯誤しながら、思考しています。実際にやったことを絵・式・文章で表したのが思考表現だと考えます。クラスで同じ教具を使えば、発表を聞きながら頭の中で教具を動かして思考し、それを絵・文・式に書いて表現することを数教協では『二重の操作活動』＝『手で作り、手で学ぶ』といい、教具を使うことで、共同の学びも創れます。右の写真①は、「72個のぷっちょを3人で分けると1人分は何個でしょう」という問題を、紙で作ったぷっちょを使って考えているところです。10個入りのぷっちょ7本を3人で分けると1人分は2本ずつで、1本余ります。余った1本をばらし、もとあったバラ2個と合わせると12個です。それを3人で分けると、1人分は4個ずつになるので、十が2と一が4で答えは24個ずつです。初めてわり算の筆算をする4年生にとって、 $72 \div 3$ の筆算は難しいものです。操作活動を元に話し合いながら筆算を作ってきます。（写真②）今年、数字操作（計算）だけでは分からない子を見つけ、紙を切って  $72 \div 3$  を説明しました。「分かった」と叫んだ彼は、次の  $68 \div 4 = 17$  に取り掛かりました。分かれば、次の問題に取り組む自信と見通しが持てます。 $6 \div 4 = 1$  あまり2、2個の十を小さくちぎって正確に28個の一を作り、4人に分けて17と答えを出し、やったことを数字の式に書いて、挙手し、皆の前で生き生きと発表しました。授業中に「分かった！」という大きな声を聞くことは教師にとって大きな喜びです。



今回は、操作活動で取り出した量を測定することで、学びにリアリティを持たせ、社会を見る目につなげることについて書きたいと思います。